　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　対象：乳幼児期の子どもをもつ保護者

時間：60分程度

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ねらい | * 多少困難な場面に子どもが直面してもその子なりに乗り越えられるよう、自己肯定感が高まる適切   な親子の関わり方について考え、わが子とよりよく関わっていこうと再認識する。 | | |
| 実施のポイント  （評価など） | * これまでのわが子との関わり方を振り返ったり、子どもの立場を体験したりすることで、わが子の   自己肯定感が高められるような子どもへの関わり方について考える。 | | |
| 事前準備 | * あらかじめ4～6人グループに分かれておく。（偶数が望ましい）   〇　筆記用具　　〇　ワークシート　　〇　アンケート（必要に応じて）  〇　資料　　○　付せん紙　　〇　模造紙　　〇　名札 | | |
| 時　間 | 学習活動 | 学習活動のねらい（◎）とポイント（・） | 準備物 |
| 10分  **導 入** | ・ワークの趣旨説明  ・3つの約束  ・アイスブレイク  （自己紹介） | ・自己紹介では「わが子のいいところ、私のいいところ」を紹介しワークへつなげる。 | ワークシート  ３つの約束 |
| 20分  **展 開** | **ワーク１**  ・役割演技をとおして、自己肯定感を高められるようなより良い関わり方を考える。  ・演技をしてみての感想を発表する。 | ◎いくつかのエピソードをもとにした役割演技を行い、体験して感じたことを実生活に生かせるようにすることをねらいとする。  ・些細なことでも褒めることの大切さに気付けるよう、身近に起こりそうなエピソードを取り上げる。  ・役割演技を体験した感想を共有する。特にエピソード①については、声の掛け方によって親子の関係にも影響することにふれる。  ＜各エピソードのねらい＞  ①～③同様  ・グループ内で役割交代することで、関わり方の答えはひとつではないと気付くことができるようにする。  ・関わり方の例として、次のようなものも必要に応じて紹介する。  　※「ありがとう」「がんばってるね」  　※認めることが難しい場面（忙しい時など）では、子どもの話をしっかり聴くこと。子どもの話を繰り返す。 | ワークシート  エピソード①～③ |
| 15分 | **ワーク２**  ・自己肯定感を育む関わり方について、グループで話し合う。  ・グループの意見を発表し、全体で共有する。 | ◎具体的な場面を想定しながら、自己肯定感を育む関わり方を知ることをねらいとする。  ・自分の考えを個人で付せん紙に書き出す。  ・グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付け  ながら、自由に話し合うことで、様々な方  法を知る。 | 付せん紙  模造紙 |
| 15分  **まとめ** | **ふりかえり**  ・資料を読む。  ・感想を書き、グループ内で発表する。  ・数名発表し、全体で共有する。 | ◎資料をとおして、自己肯定感の定義や自己肯定感を育む方法について知り、自己肯定感が高いと少しの困難でも乗り越えられる力をもつことができるということに気付くことをねらいとする。  ・資料は参加者にあわせて選択する。  ・今後の子育てに生かせるよう、ふり返りシートに記入し、関わり方に悩んだら、一人で悩まず助けを求めるよう伝える。 | ワークシート  資料１（未就学児対象）  資料２（学童期対象）  資料３（必要に応じて配付） |